

仙南クリーンセンター 施設紹介

Q&A 「スラグ」とは？

溶融スラグとは、ごみをもやした後にできる灰を、さらに1,200℃以上の高温で溶かし、冷やし固めたものです。

溶融スラグは道路のアスファルトやコンクリートの土木建設資材として有効利用することができます。



仙南クリーンセンターで生成されたスラグは、実際に仙南クリーンセンターの見学者用道路に使用されています。

資源を再利用します

ごみに含まれる金属類を資源として回収します。また、ごみを溶融してスラグとし、道路用資材等として再利用することで、リサイクル率の向上を図ります。

ごみの焼却熱を利用して発電を行います

仙南クリーンセンターでは、ごみをもやす過程で発生する熱を回収し電気に変換するごみ発電を行います。
発電した電気は、施設内の運転に使用し、余った電気は、電力会社に売電します。
1時間当たりの最大発電力は、3,200kWであり、これは一般家庭7,680世帯(1日分)の消費電力に相当します。

環境について身近に学べます

施設の3階は見学フロアとなっております。ごみの搬入や、処理能力の7日分のごみを貯留できるごみピットの様子を見学することができます。
4階には仙南クリーンセンターの仕組みが分かる展示物があり、環境について身近に感じ、学習できる施設となっております。



ごみピット(中央のクレーンでごみをかき混ぜ、ごみ投入ホッパへ運びます。)

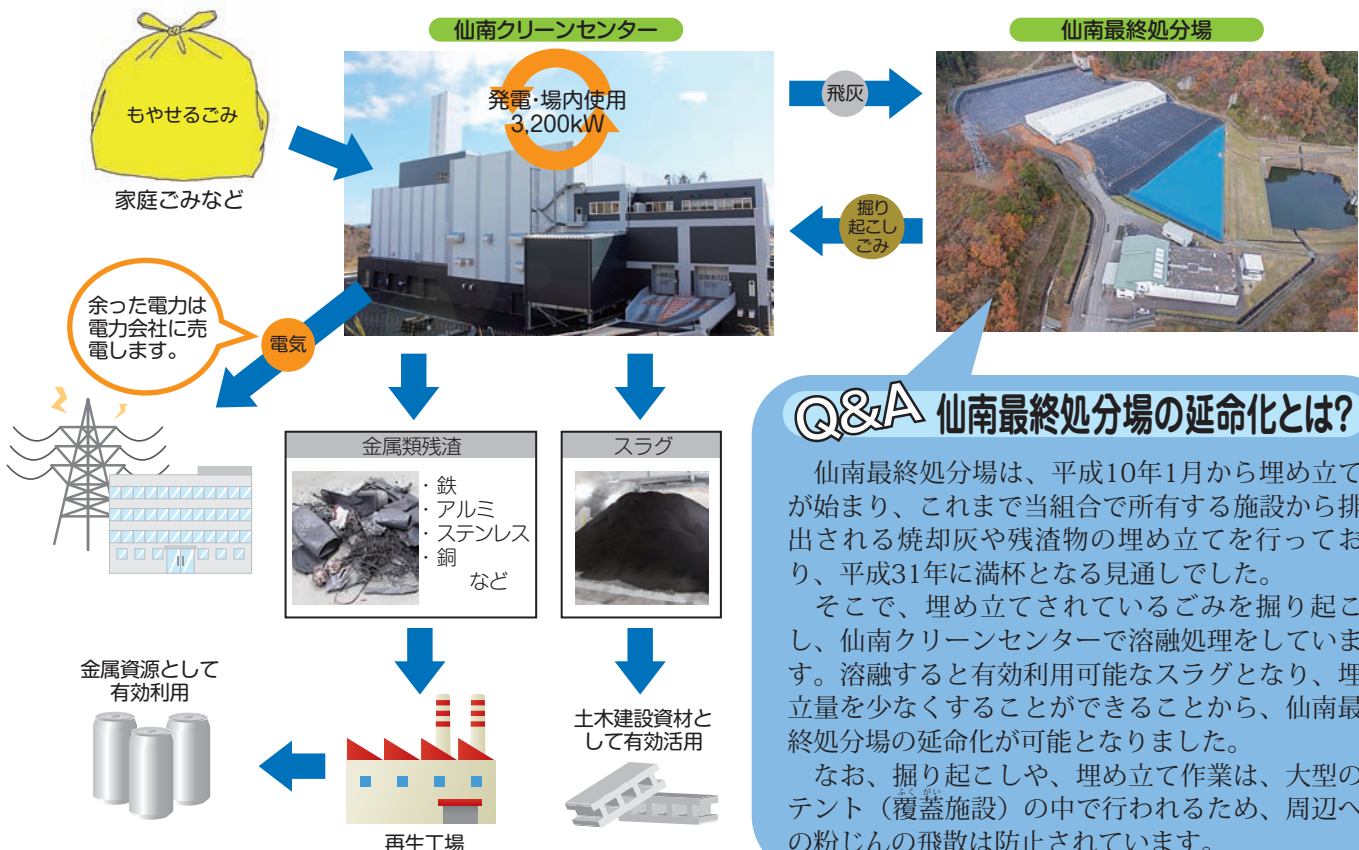


発電を体験できる装置(4階)



プラットフォーム(2階)

ごみ処理の流れ(仙南クリーンセンターと仙南最終処分場)



Q&A 仙南最終処分場の延命化とは？

仙南最終処分場は、平成10年1月から埋め立てが始まり、これまで当組合で所有する施設から排出される焼却灰や残渣物の埋め立てを行っており、平成31年に満杯となる見通しでした。

そこで、埋め立てされているごみを掘り起こし、仙南クリーンセンターで溶融処理をしています。溶融すると有効利用可能なスラグとなり、埋立量を少なくすることができることから、仙南最終処分場の延命化が可能となりました。

なお、掘り起こしや、埋め立て作業は、大型のテント(覆蓋施設)の中で行われるため、周辺への粉じんの飛散は防止されています。